

# 箱のかん注処理で 抵抗力をつけて、 本田へ 前途洋々

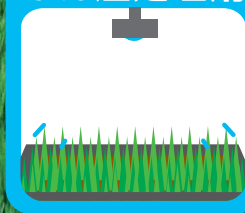


## ルーチン<sup>®</sup> フロアブル

イネ自身に抵抗力をつけていもち病を  
防除する植物病害抵抗性誘導剤  
「ルーチン」のかん注処理剤



かん注処理剤



ルーチン<sup>®</sup>で育てる  
いもち病防除の<sup>®</sup>新定番

◆ ホクサン株式会社

®はバイエルグループの登録商標



農林水産省登録 第23195号  
 ●成分：イソチアニル……………18.3%  
 ●毒性：普通物（「毒物および劇物取締法」にもとづく毒物・劇物に該当しないものを指すという通称）

**ルーチンフロアブルの特長**

- 1 いもち病に育苗箱かん注処理で箱粒剤と同等の高い防除効果を示します。**  
 (本剤の100倍液0.5ℓ/箱処理は、ルーチン剤の箱粒剤50g/箱処理と同じ有効成分投下薬量になります。)
- 2 浸透移行性に優れ、長い残効性があります。**
- 3 植物病害抵抗性誘導型殺菌剤ですので、耐性菌発達のリスクが小さい薬剤です。**

**適用病害および使用方法 (2017年3月現在)**

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病	75~100倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り0.5ℓ	移植3日前~ 移植当日	1回	灌注	3回以内 (移植時までの 処理は1回以内、 本田では2回以内)

**育苗箱かん注処理のポイント**

**1. 希釈液をつくる**

ルーチンフロアブルを水に入れてよく攪拌し、75~100 倍の希釈液を調製して下さい。

・希釈液の調製後は速やかに処理して下さい。

**2. 希釈液をかん注する**

調合した薬液を苗の上から均一にかん注処理して下さい。

・軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには使用しないで下さい。  
 ・薬液が苗箱からこぼれないようにご注意下さい。  
 ・育苗箱に灌注剤を処理したハウス内では、後作物の栽培は避けて下さい。

**3. 田植作業を行う**

通常の作業手順に従い、田植作業を行って下さい。

※本剤と液肥との混用、および本剤処理後の液肥散布は、葉先枯れ症状を発生させる場合がありますので、避けて下さい。また、液肥散布後に本剤を処理する際には、1日以上間隔をあけて下さい。  
 ※本剤の処理後、葉面に白い葉斑(汚れ)が生じる場合がありますが、稲への影響は認められません。

**注意事項**

- 使用前によく振ってから使用して下さい。
- 本剤を誤って過剰に使用したり、本剤使用後4日以上移植せずに育苗箱中におくと葉先枯れなどの薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用時期、使用方法を厳守して下さい。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないで下さい。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないで下さい。
- きく等の他作物に影響を及ぼす場合がありますので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布して下さい。
- 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に行い、移植後田面が露出しないように注意して下さい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤の処理後、葉面に白い葉斑が生じる場合がありますが、稲への影響は認められません。
- 誤飲などのないよう注意して下さい。
- 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用して下さい。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換して下さい。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯して下さい。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けて下さい。
- 夏期高温時の使用を避けて下さい。
- 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管して下さい。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。●ラベル記載以外には使用しないで下さい。●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

RE 17.04.5T